

令和5年度 算数科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

● 正答率…前年度と比較し上昇↑・下降↓・同じ＝

他の項目…目標値と比較して±5ポイントを基準として≒で表す。

基準を上回るものを△、下回るものを▽で表す。

		令和5年度	令和4年度	令和3年度	
第4学年	数と計算	≒	/	/	
	図形	△			
	測定	△			
	データの活用	≒			
第5学年	達成率	↓	/	/	
	数と計算	△			△
	図形	△			△
	測定	△			△
	データの活用	△			△
第6学年	達成率	↑	↑	/	
	数と計算	△	△		△
	図形	△	△		△
	測定	△	△		≒
	データの活用	△	△		△

(2) 分析（観点別）

① 定着が図られた領域

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
測定・変化と関係の領域については、正答率が高い。	数と計算の理由を説明することができている。	特に図形の作図については共通して定着している。

② 課題のある領域

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数や小数など、数と計算の領域における理解が不十分などところがある。	図形・測定についての記述式問題の正答率が低い。	記述式問題に対する個人差が大きく見られる。

2 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 昨年度の課題について

- ・自分の考えをもち、伝えるということに対して、授業の際にグループ活動を取り入れたり、発表しやすい場づくりを心がけて取り組んできた。自分の考えをノートに書き表している様子がよく見られるようになった。

(2) 今年度の課題について

- ・昨年度の取り組みにより自分の考えをもつことができるようになってきた一方で、自分の考えをすすんで伝えたり、意見を出し合ったりすることについては十分とは言えない。自分の考えに自信をもつことや、よりよい方法を考えようとする姿勢を育てていくことが課題といえる。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
繰り上がりや繰り下がりのある計算については、計算の仕組みを視覚的につかませるとともに、復習を繰り返して、定着を図る。時刻と時間、長さなどの学習は、年間を通して学校生活の様々な場面で意識的に使うようにしていく。	演算決定のための文章の読解力を付けるために、分かっているところ、聞かれているところに下線を引いたり、解決の仕方を絵や図に描き表したりする活動を取り入れて、指導していく。	数についての感覚を豊かにするために、具体物や半具体物を使って取り組む。時刻や時間、身の回りにあるものの長さ、かさなどの量感を、日常活動の中で意識させ、学習への関心を高めていく。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・練習問題を解き終わった児童から、問題作りをする時間を確保し、知識の定着を図る。また、タブレットを活用し多くの問題を解くことでも定着を図っていく。 ・答え合わせの際に、違っている原因をきちんと確認し次の問題に取り組む習慣を身に付けさせる。	・基本的な学習は概ね身につけていると考える。しかし、ある一部にノート指導が必要な児童がいるのも事実である。図でかいたり数直線でかいたりして、ノート指導に力を入れる。また、考えを表すさまざまな表現方法を紹介し、必要に応じて活用する力を身に付けさせる。	・話し合い活動・自分の考えを伝える活動を多く取り入れて、友達の意見を聞いたり、自分の意見を話したりする活動を積極的に取り入れていく。新たな考え方に触れることで、自ら解きたい・考えたいという気持ちを高められるようにしていく。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・算数用語を適切に活用できるよう、言葉の意味について丁寧に確認する。 ・朝学習や家庭学習においてタブレットを活用しより多くの問題に取り組みせることで、知識の定着を図る。	・自力解決の時間を確実に確保するとともに、小グループ内での説明等交流活動も適宜行うことで、課題解決の力を身に付ける。	・個で問題に取り組む時間を確実に確保するとともに、互いに教え合う時間も設け、学習理解が乏しい児童も達成感を得られるよう授業展開を工夫する。